

家 庭

1 学習指導と評価の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導等について～

専門教科「家庭」の目標は、家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本としての知識と技術を習得させること、生活産業の社会的な意義や役割を理解させること、家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図ることのできる創造的な能力と実践的な態度を育成すること、の3つであり、それぞれが有機的に関連しながら、生活産業にかかわる将来のスペシャリストに必要な資質や能力を育成することである。

こうした目標の実現と、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるキャリア教育の充実を図るためには、実践的・体験的な学習の中に、就業体験を積極的に取り入れ、働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解させるとともに、将来の職業を自らの意志と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるよう学習指導を改善し、充実させることが必要である。

また、評価においては、各科目の評価の観点の趣旨を踏まえ、生徒の実態や学習内容に合わせた観点別の評価規準を作成するとともに、評価の客観性・信頼性を高める工夫や、生徒の学習意欲を高める工夫など、評価方法の工夫・改善を図ることが大切である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の改善・充実～

(1) 専門教科「家庭」とキャリア教育

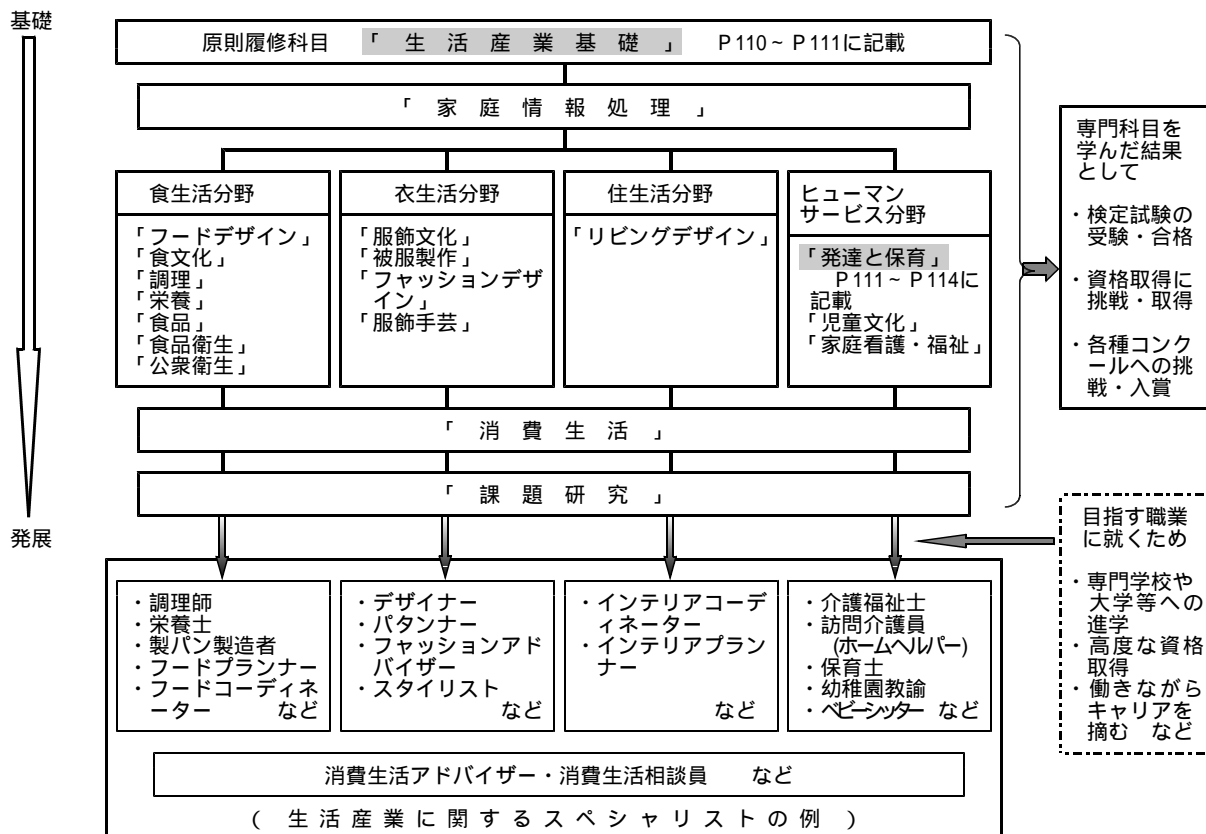
キャリア教育においては、生徒の知・徳・体の調和のとれた発達をどのように支援するか、また、生徒が身に付けた能力や態度を現在及び将来の生き方にどのように生かしていくかといった視点に立って、校内のキャリア教育に関連する教育活動を体系化し、計画的、組織的に取り組むことが大切である。専門教科「家庭」においても、各科目の内容と職業とのかかわりを明確にして、教育課程を編成することが大切であることから、本手引では、専門科目の学習が生活産業に関するスペシャリストの育成へどのように結び付いているのか、履修順序に沿って次ページの図にまとめてみた。各学校においては、これを参考にするなどして、各科目等の内容と職業とのかかわりを明確にし、教育課程を編成することが必要である。

(2) 「人間関係形成能力」を育む取組

キャリア教育においては、「職業観・勤労観の形成に関連する4つの能力領域」(「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」)を、小・中・高等学校のそれぞれの発達段階に応じて、児童生徒に身に付けさせることが期待されている。そのため、本手引では、「人間関係形成能力」(自他の理解能力とコミュニケーション能力)に着目し、生活産業に従事するスペシャリストとして、社会で働くことを通して社会の発展に寄与しようとする実践的態度の育成を目指した、実践的・体験的学習の事例を科目「生活産業基礎」と「発達と保育」で示すこととした。

自他の理解能力:自己理解を深め、他者の多様な個性を認め合うことを大切にして行動できる能力

専門科目の学習と職業とのかかわり（例）



「生活産業基礎」は、教科「家庭」の専門科目の名称である。
網掛の科目については、次のページに具体的な指導内容等を記載した。

ア 原則必履修科目「生活産業基礎」における取組

「生活産業基礎」は、家庭に関する専門的な学習への動機付けや卒業後の進路についての生徒の意識を深めることを目的としている科目である。この科目の目的を達成するため、本手引では、調査、グループ討議及び社会人講師の講話を取り入れて、生徒自身の適性や興味・関心をもとに自分に合う職業は何かを考えさせ、自他の理解能力を高める学習の事例を示す。

科目「生活産業基礎」(4)職業生活と自己実現 の評価計画表(例)

科目名	生活産業基礎		単元名	(4) 職業生活と自己実現	
単元の目標	・職業生活が自己実現につながることを社会人講師の講話や討論を通して、具体的、体験的に認識させる。 ・専門科目の学習と職業生活とのかかわりや職業における職業資格の意義について考えさせ、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てさせることなどを通して専門科目の学習に向けての意欲を高めさせる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
内容のまとめりごとの評価規準	専門科目の学習と職業生活とのかかわりや産業と職業資格について関心を持ち、意欲を持って学習活動に取り組んでいる。	専門科目の学習と職業生活とのかかわりや職業と職業資格に関する学習を通して、将来の職業生活と進路選択について思考を深めている。	職業資格の取得方法などについて調べたり、進路目標に応じた学習プランを立てたりすることができる。	職業・勤労の意義、専門科目の学習とのかかわり、職業における職業資格の意義や取得方法について理解している。	
評価規準の具体例	・専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業と職業資格について関心を持ち、調べたり学習プランを立てようとしている。	・専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業と職業資格に関する学習を通して、将来の職業生活と進路選択について具体的に考えている。	・職業資格の取得方法などを調べたり、進路目標に応じた学習プランを、具体的に検討したりすることができる。	・職業・勤労の意義、専門科目の学習とのかかわり、職業における職業資格の意義や取得方法について自分の進路目標とのかかわらせて理解している。	

「子どもにかかわる職業と資格」の評価計画（例）

題材「職業の選択と自己実現」		観点別評価規準			
学習活動における評価規準・評価方法	主な学習活動	【関心・意欲・態度】	【思考・判断】	【技能・表現】	【知識・理解】
		子どもにかかわる職業と資格 計6時間	子どもにかかわる職業と資格について調べてまとめ、発表する。 (2時間)	子どもにかかわる職業や資格などに関心をもってワークシートの記入に取り組んでいる。 ワークシート 観察(取組状況)	(評価規準設定なし)
	3・4時間目 社会人講師(保育士)の講話を聞き、レポートにまとめる。 (2時間)	保育士という職業に興味をもって講師の話しを聞いている。 観察(受講状況)	講話から自分の進路実現に必要な知識や技術及び資格取得のための目標を考えることができる。 講話プリント	保育士の現実を踏まえ必要な知識や技術及び資格取得のための具体的な人生プランをまとめることができる。 講話プリント	(評価規準設定なし)
	4・5時間目 幼稚園見学により仕事調査を行い、それをもとにグループ討議をする。 ・見学(1時間) ・調査のまとめ(1時間)	幼稚園教諭の仕事に関心をもって調査している。 観察(取組状況) ワークシート	幼稚園見学による幼稚園教諭の調査から自分の適性と合うか思考することができる。 レポート	幼稚園教諭の仕事内容についてグループ内で話し合い、レポートにまとめることができる。 レポート 観察(討議・発表)	幼稚園教諭になるために必要な知識や技術、資格について理解している。 ワークシート 定期テスト[学期末]

単元の評価の総括の資料とする。

単元の評価の総括の資料としない。

イ 専門科目「発達と保育」における取組

キャリア教育の視点を踏まえ、コミュニケーション能力の育成を目指すとともに、評価の観点である【技能・表現】に焦点を当てた学習指導の取組例を示す。

(ア) 「児童虐待」を題材としたディベートの例

「保育体験実習」を前に、社会問題となっている「児童虐待」を題材として、家庭保育におけるしつけの在り方や、問題の背景に複雑な要因が絡んでいることを、ディベートによる演習を通して深く考えさせるとともに、他者の意見を聞き、自分の意見を発表する経験を通してコミュニケーション能力の育成を図る学習指導の取組例を次に示す。

ディベート「しつけのために多少の暴力は許されるか？」の取組（例）

科目名	発達と保育	単元名	乳幼児の保育	履修学年	2年生(選択)
本時主題	家庭保育と集団保育～家庭保育におけるしつけについて「しつけのために多少の暴力は許されるか？」～				
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した「子どもを取り巻くさまざまな問題」を踏まえ、親の役割や責任の重さについて深く考えるとともに、子どもをしつける場面での親の適切なかわり方やしつけにかかわる暴力、児童虐待の背景について考察する。 乳幼児の虐待など、家庭保育の課題についてのディベートに積極的に参加し、自分の意見を持ち、発表することができる。 				
過程	指導内容	学習活動	評価規準・評価方法	指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の授業内容の振り返り 本時の目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の「子どもを取り巻くさまざまな問題」の授業を振り返る。 本時の学習目標を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 前時にディベートに関するルール等について説明を行っておく。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 今回のテーマ「しつけのためには多少の暴力は許されるか」の提示 グループごとのディベート(20分) 各グループからの報告(各2分) 児童虐待防止のためにできること 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを確認する。 グループ分けをする。 グループリーダーを決定する。 1グループ8人ずつになる。 「YES」「NO」それぞれ4人ずつに分かれ、意見を交わす。 グループリーダーから内容の概要を報告する。 親の役割、周囲(地域)の支援の必要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 子どものしつけの場面における、親の適切なかわり方を考察することができる。しつけにかかわる暴力、児童虐待の背景などについても考察している。 評価方法 観察、ワークシート 【技能・表現】 乳幼児の虐待など、家庭保育の課題についてのディベートに積極的に参加し、自分の意見を発表することができる。 評価方法 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待を受けた経験のある生徒がいることを想定し発問に配慮しながら進める。 各グループの報告を受け、「暴力(児童虐待)は人権侵害でありいかなることがあっても許されない」ことを説明する。 	
まとめ	次時の予告	次は集団保育について学習することを確認する。			

(1) 「保育体験実習」の取組

保育体験活動は、「赤ちゃんふれあい体験」や「幼稚園児交流会」などとして実施されているが、それぞれは単発の活動で終わってしまい、キャリア発達を踏まえた系統性のある取組になっていないとの指摘もある。そのため、本手引では、科目「発達と保育」において、保育体験実習を年間2回取り入れ、事前・事後の学習指導との系統性を重視するとともに、異年齢交流におけるコミュニケーション能力の育成を図る学習指導の取組例を次に示す。

専門科目「発達と保育」の年間評価計画表(例)

科目名	発達と保育						
科目の目標	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの健全な成長を図る能力を育てる。						
履修学年	2学年(選択)		単位数	2単位(70時間)			
授業形態	一斉学習、グループ学習						
評価の観点	【関心・意欲・態度】	【思考・判断】	【技能・表現】	【知識・理解】			
評価規準	・乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関心を持ち、子どもの健全な成長を図ることを目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	・子どもの健全な成長に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用して創意工夫する能力を身に付けている。	・乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに付いて、適切に乳幼児とかわかっていることができる。また、それを通じて得た成果を的確に表現する。	・乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに付いて、保育の必要性と意義を理解している。			
単元及び学習内容	乳幼児期は人間の発達の基礎を培う時期であり、この時期の親のかかわり方や環境とのかわりが重要であることを理解させる。						
前期	(1)人間としての発達 ア 人間発達の中の乳幼児期 イ 発達観・児童観の変遷	ならい 評価規準の具体例	・乳幼児の発達について関心を持ち、子どもと親とのかわり、子どもと環境とのかわりについて関心をもって考えようとしている。	・人間の発達における乳幼児期の意義について思考を深めている。	・人間の発達を培う乳幼児期について具体的な事例を調査したり発表したりすることができる。	・子どもの発達における親の関与の重要性について理解している。	
	(4)乳幼児の保育 ア 保育の必要性と意義 イ 保育の目標と指導の原理 ウ 家庭保育と集団保育 エ 児童虐待に関するディベート	ならい 評価規準の具体例	・家庭保育と集団保育から、子どもを保育する意義について関心をもって考えようとしている。	・家庭保育、集団保育、それぞれの場面で、子どもとの適切なかわり方について考えを深めている。	・乳幼児の心身の発達に応じた保育について調べ、まとめ、発表することができる。	・集団保育における子どものかかわり方や環境整備などについて理解している。	・家庭における適切な親子関係の在り方や現代の親と子が抱える問題点を把握している。
	(2)乳幼児の発育・発達 ア 乳幼児の生理的特徴 イ 身体発育 ウ 精神発達と心の健康 第1回 保育体験実習 エ 人間関係の発達 オ 発達の共通性と個別性	ならい 評価規準の具体例	・乳幼児の発達を促すための保育の必要性と意義を理解させ、保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けさせる。また、家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解させる。	・乳幼児の発達を促すための保育の必要性と意義を理解させ、保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けさせる。また、家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解させる。	・乳幼児の心身の発達に応じた保育について調べ、まとめ、発表することができる。	・集団保育における子どものかかわり方や環境整備などについて理解している。	・家庭における適切な親子関係の在り方や現代の親と子が抱える問題点を把握している。
	(3)乳幼児の生活 ア 乳幼児の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 乳幼児の生活と環境 第2回 保育体験実習 エ 乳幼児の健康管理と事故防止	ならい 評価規準の具体例	・乳幼児の発達を促すための保育の必要性と意義を理解させ、保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けさせる。また、家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解させる。	・乳幼児の発達を促すための保育の必要性と意義を理解させ、保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けさせる。また、家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解させる。	・乳幼児の心身の発達に応じた保育について調べ、まとめ、発表することができる。	・集団保育における子どものかかわり方や環境整備などについて理解している。	・家庭における適切な親子関係の在り方や現代の親と子が抱える問題点を把握している。
後期	(5)乳幼児の福祉 ア 児童福祉の理念と法律・制度 イ 児童家庭福祉	ならい 評価規準の具体例	・乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、生活環境の整備、健康管理と事故防止などについて取り扱い、乳幼児の健全な発育・発達を促す生活について理解させる。	・乳幼児の発達を促すための保育の必要性と意義を理解させ、保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けさせる。また、家庭保育と集団保育について、それぞれの特徴や役割を理解させる。	・乳幼児の心身の発達に応じた保育について調べ、まとめ、発表することができる。	・集団保育における子どものかかわり方や環境整備などについて理解している。	・家庭における適切な親子関係の在り方や現代の親と子が抱える問題点を把握している。
		・乳幼児の生活全般(健康、食生活、衣生活、遊び、生活環境、病気、安全など)について、広く関心を持ち、子どもと適切にかかわろうとしている。	・乳幼児の発育・発達に即した適切な習慣形成について考えを深めている。	・保育体験実習により、自ら積極的に幼児とふれ合うことができ、幼児の発達段階に応じた言葉を使い、幼児の反応を把握しながらかわることができる。	・乳幼児の発育・発達に応じた適切な養護が重要であることを理解している。	・生活習慣の形成に必要な保育者の働きかけについて理解している。	
		・乳幼児が心身ともに健やかに育つための児童福祉の理念や法律と制度について理解させるとともに、近年の児童家庭福祉の考え方や子育て中の家庭への支援に関する施策についても理解させる。	・子どもを健やかに育てていくためには、具体的な施策が必要であることがわかり、今後の施策の方向性を判断することができる。	・現代における子どもや子育てにかかわる問題点や課題について情報収集することができ、その解決策などについて自身の考え方を述べるることができる。	・児童福祉の考え方やそれにかかわる制度を理解している。	・子どもや子育てを取り巻く問題点や課題にまで踏み込んで分析し、望ましい児童福祉の在り方について理解している。	

第1回 保育体験実習の取組(例)

教科(科目)	発達と保育	単元名	乳幼児の保育・保育	クラス	2年選択
本時の主題	精神発達と心の発達 (保育体験実習-保育所訪問)				
本時の目標	保育体験実習を通して、これまで学んだ乳幼児の生理的特徴、身体発達、精神発達等を具体的に理解するとともに、相互の気持ちを伝え理解し合うコミュニケーション能力の基礎を養う。				
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点	
導入	・保育所集合 ・本時の目標の確認	・服装・持ち物等を確認する。 ・各自、学習目標を確認する。		・幼児の行動に十分注意を払いながらも有意義な時間がもてるよう促す。	
展開	・乳幼児との対面 ・グループ分け ・自己紹介 ・幼児との交流 ・観察	・対面し、あいさつを交わす。 ・生徒2人に対して、幼児1~2人のグループを作る。 ・何度かふれあい、会話する中で、気付いたことなどメモする。 ・幼児に合わせて話しかけ、手を取って遊ぶ。 ・簡単な遊び(じゃんけんゲーム) ・幼児を観察する。	【関心・意欲・態度】 保育実習で、積極的に乳幼児とかがわろうと取り組んでいる。 評価方法 ふれあいメモカード 【技能・表現】 交流を通して、乳幼児の心身の発達段階や行動などを観察し、適切なかかわり方を身に付けている。 評価方法 自己評価票	・幼児と生徒の人数の差があるので、多くの幼児とかがわれるよう促す。 ・幼児とうまくかかわれない生徒がいた場合には個別に助言する。 ・幼児の安全に十分配慮させるよう見守る。・忘れないうちにシートへの記入、自己評価をさせる。	
まとめ	・お別れの挨拶 ・再会(2回目保育体験実習)の予告	・握手して別れる。 ・再会の約束(自校への招待)をする。			

第2回 保育体験実習の取組(例)

教科(科目)	発達と保育	単元名	乳幼児の生活	クラス	2年選択
本時の主題	乳幼児の生活と環境 (保育体験実習-自校への招待)				
本時の目標	・授業で学んだ知識や技術を生かすとともに、第1回目の保育体験実習を通して培われた資質・能力を活用し、生徒が主体的に幼児とふれあい、幼児の発達や幼児の生活に関する理解を深める。 ・実習を通して人間の成長のすばらしさや、子育ての楽しさや大変さについて考えることができる。				
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点	
導入	・幼児の出迎え ・本時の目標の確認	・準備していた名札を付ける。 ・各自、学習目標を確認する。		・会場、歩くルート等の事前確認をし、衛生・安全面に配慮する。	
展開	・乳幼児との対面 ・グループ作り ・幼児との交流・遊び ・観察	・対面し、あいさつを交わす。 ・生徒4人に対して、幼児2~4人のグループを作る。 ・事前に一人ずつ用意した製作物(手作り絵本、紙芝居、人形劇、エプロンシアター、パネルシアター等)や、ゲームまたは実演(読み聞かせ、折り紙等)の中から2~3種類を選択し、ともに遊ぶ。 ・幼児の反応、動き、興味・関心の様子を観察しメモする。	【思考・判断】 遊びを通して人間のすばらしさや子育ての楽しさ、大変さ、親の役割・責任についても考えることができる。 評価方法 記録用紙 【技能・表現】 自ら積極的に幼児とふれあうことができ、幼児の発達段階に応じた言葉を使い、幼児の反応を把握しながらかかわることができる。 評価方法 記録用紙	・幼児と生徒の人数の差があるので、多くの幼児とかがわれるよう促す。 ・事前にグループでの役割分担を話し合っておく。 ・事故のないように幼児の安全に十分配慮させる。 ・忘れないうちに保育体験実習記録用紙への記入、レポート作成の準備をさせる。	
まとめ	・お別れの挨拶 ・まとめ	・握手して別れる。			

ふれあいメモカード(例)

子どもとの交流(1人目)			
実施日時	平成 年 月 日() 時~ 時		
実習者	2年 組 番 氏 名		
実習内容	自己紹介、各保育教室でのふれあい		
幼児の名前	年齢、性別	4歳、男	
クラス	タンポポ組	場所	園庭
質問項目	質問項目		
子どもの様子とその表情	生き生きと走って遊んでいた。遊びに集中している様子で、とてもいい笑顔だった。		
子ども同士の遊びの様子	グループ遊びでは、リーダーシップを発揮し、みんなをまとめていた。		
裏面は自由記述用として活用しましょう。			

保育体験実習の具体的進め方

事前指導では、「ふれあいメモカード」の質問項目を生徒に考えさせる。

1回目の実習では、「ふれあいメモカード」を複数枚携帯させ、メモを取らせる。

1回目の事後指導として、「保育体験実習記録用紙(次ページ参照)」に記入させ、まとめさせる。

幼児の心身の発達の特徴や、遊びの特徴を踏まえて、2回目の保育体験実習で使用する手作り玩具や創作遊びの計画を立てさせる。

2回目の事後指導においては、1回目と同様に「保育体験実習記録用紙」に記入させ、自己評価による生徒自身のよさや意識の変化を実感させるようにする。

保育体験実習記録用紙（1回目・2回目）（例）

第1回目		精神発達と心の発達（保育体験実習 - 保育所訪問）			
目 標		保育体験実習を通して、これまで学んだ乳幼児の生理的特徴、身体発育、精神発達等を、具体的に理解するとともに、相互の気持ちを伝え理解し合うコミュニケーション能力の基礎を養う。			
事前学習	保育園名 担当クラス 何歳児	()保育園 (タンポポ)クラス (4)歳児	訪問日時 訪問時の 服装	()月()日()曜日(:)~(:)	指定ジャージ 体操シューズ
	幼児と接する時の心構えや諸注意を考えてみよう いつも笑顔で接するよう心がける。		保育園に行ってもなことを調べたり、やってみたいか 子どもたちと楽しく遊びたい。		
観察からわかったこと	話した子どもの名前	年齢	性別	場所	その他
	A	4歳	女	教室	手を握ってきたので、きっと甘えたいのだと思った。
	B	4歳	男	園庭	活発に走り回っていて、普段から体を動かすのが好きな子だと思った。
	幼児と同じ目の高さになるには、自分が()くらをかいたり()すると、可能となる。				
	()歳の平均身長は()cm位、個人差もある。				
遊びの種類		使っている玩具		着用している服	
おにごっこ・ままごとなど		ボール		男の子は綿トレーナーとズボン 女の子はブラウスとスカート	
子どもの様子とその表情			子ども同士の遊びの様子		
男の子たちは、生き生きと走って遊んでいた。遊びに集中している様子で、とても楽しい笑顔だった。女の子たちはここにこしてままごと遊びをしていた。			グループ遊びでは、リーダーシップを発揮し、みんなをまとめる子が必ずいた。[君がその一人であった。]		
自己評価	評価項目		評価		
	複数の幼児の遊びなどについて観察できたか。		4		
	幼児へ質問した際、話し方・言葉遣いが適切だったか。		3		
	観察中は安全や衛生に十分配慮したか。		4		
複数の幼児とふれあうことができたか。		3			
合計		14			反省・感想

第2回目		乳幼児の生活と環境（保育体験実習 - 自校への招待）				
目 標		・授業で学んだ知識や技術を生かすとともに、第1回目の保育体験実習を通して培われた資質・能力を活用し、生徒が主体的に幼児とふれあい、幼児の発達や幼児の生活に関する理解を深める。 ・実習を通して人間の成長のすばらしさや、子育ての楽しさや大変さについて考えることができる。				
事前学習	保育園名 担当クラス 何歳児	()保育園 (パラ)クラス (4)歳児	招待日時 招待時の 服装	()月()日()曜日(:)~(:)	指定ジャージ 体操シューズ	
	グループ内での選択した遊び（各自制作した物から各グループ3点ずつ選ぶ）					
事前学習	選択1	創作紙芝居	選択2	手作り布絵本	選択3	手作り人形
	理由	視覚に訴え、物語になっているので集中してくれそうだから。	理由	柔らかく、ぬくもりがあり、マジックテープで、自由に遊べるから。	理由	ぬくもりがあり、着せ替えができ楽しめるから。
	準備・学習しておくこと	・シナリオの読み聞かせ練習 ・紙芝居の枚数・順番の確認	準備・学習しておくこと	・シナリオの読み聞かせ練習 ・各パーツの確認	準備・学習しておくこと	・着せ替えの衣装にアイロンをかけておく。
幼児と接する時の心構えや諸注意を考えてみよう 幼児の身体の大きさを考え、歩くときは、歩幅や目線の高さに気を配る。						
どんなことを学んだり、やってみたいか 幼児はどのような遊びに興味を示すか、観察し、遊びと発達の関連について知りたい。						
交流からわかったこと	年齢	男児数	女児数	場所	実施した遊び	
	4歳	2人	2人	多目的ホール	創作紙芝居 ・ 手作り布絵本	
	幼児が興味を示したこと	紙芝居で、展開の早いところや大きな効果音を鳴らしたところ。 布絵本のマジックテープで好きな場所にパーツを移動できるところ。		その理由	幼児が興味を示さなかったこと等、課題	
その理由	視覚や聴覚に訴えるので注目してくれた。また、効果音とストーリーを合わせるために何度も練習し、うまくいったため興味を示してくれた。		その理由	紙芝居での静かな場面で落ち着きがなく他のグループの方へ関心を示した。 布絵本のマジックテープに夢中で話を聞いてくれなかった。		
心身の発達と遊びとの関連	幼児には心身の発達の個人差があり、それによって、興味の示し方が違うということがわかり、一人一人に合わせたかわり方が必要である。		遊びの意義	幼児期は人としての基礎であり心身ともに大きく成長するときであるため、この時期の遊びはとても重要。遊ぶことから成長していくことに気づいた。		
自己評価	評価項目		評価			
	自分から進んで、幼児へかかわることができたか。		5			
	幼児の興味や関心をひく話し方や適切な言葉遣いができ、一緒に遊ぶことができたか。		4			
	遊び方は安全で、衛生にも十分配慮したか。		5			
体験実習を通して遊びの特徴や意義について理解できたか。		4				
合計		18			反省・感想	
実習を終えて		1回目と2回目の幼児に対する気持ちの変化についてまとめよう。 最初はやっぱりな子や、おとなしい子など、いろいろな子がいて、それぞれかわいいなあという気持ちだったが、2回目には、一人一人の表情をよく観察でき、一人一人に合った接し方をしたり、責任を持ってかわったりしなければならなかった。				
		もっと知りたいことをまとめてみよう。 発達が周りの幼児よりも遅れていると考えられる幼児への適切な接し方を学びたい。				

自己評価の区分 5 とてもよくできた。 4 よくできた。
3 だいたいできた。 2 あまりできなかった。
1 全くできなかった。（どこに原因があったか考えてみましょう。）